

2019年度
ボーイスカウト×ユニクロ
難民支援衣料回収プロジェクト
寄贈フォトレポート

株式会社 ユニクロ

2019年度子ども服回収にご協力いただきありがとうございました！

これらの服は、
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の要請に基づいて、
服を必要としている難民・避難民の子どもたちにお送りしています。

このレポートでは、
みなさんが回収した服が、発送後どのようにして子どもたちのもとへ
届いているか、写真でご報告します。



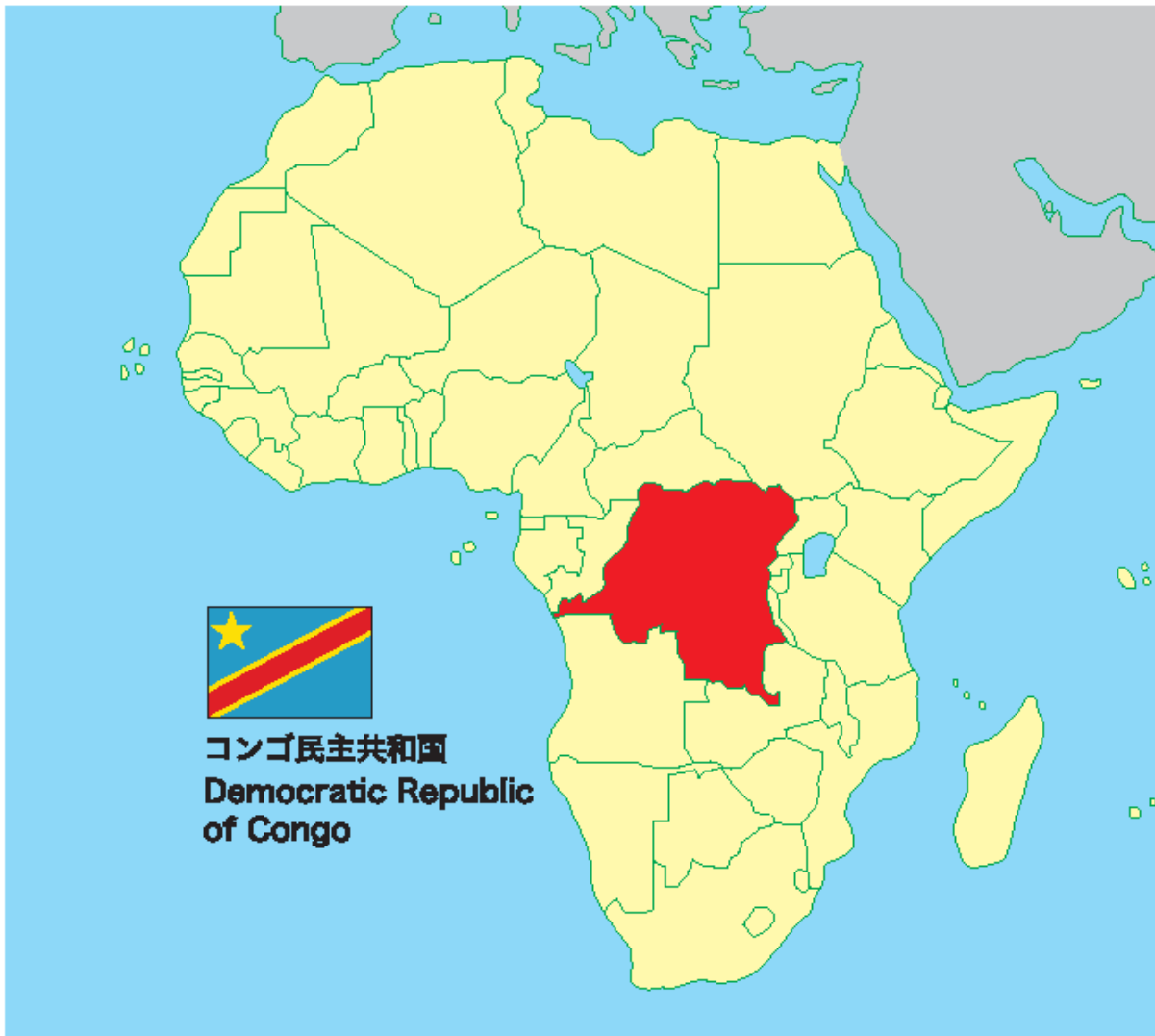
みなさんにお持ちいただいた服は、店舗から日本にある倉庫に運ばれます。こちらの倉庫では、みなさんが集めてくれた服をさらに細かく選別していきます。



受け取る人の気持ちを考えて、まだ着られる服、もう着られない服に分けた後、サイズや性別など、種類ごとに段ボールに入れていきます。



一度にたくさんの服をお届けできるように、服を圧縮してまとめます。さらにビニールでしっかりつつみ、雨にぬれたり途中で汚れたりしないようにします。そして、船で服を本当に必要としている世界中の人々の元へ届けられます。



今回お届けした国の一つが、コンゴ民主共和国です。
アフリカ第2位の面積を持ち、自然豊かな国です。
ここでは近隣諸国から53万8千人の難民を受け入れています。



実際に服をお届けしたのは、コンゴ民主共和国の北側、中央アフリカ共和国との国境に位置するインケ難民キャンプです。ここは国連の専用機で週に2回しか訪れることができない、人里離れた場所です。



インケ難民キャンプが位置している北ウバンギ州は、
熱帯モンスーン気候に属しています。
服を届けた時期はちょうど雨季で、スコールも多く、道路が水没すること
もあるとのこと。



ここで生活を送る約18,000人の難民のうち、11,000人近くが18歳未満の子どもです。地域に一つしかない小学校には、2,500人を超える子どもたちが通っています。中学校に進学する子どもたちは、そのうちの約15%ととても少ないです。



待ちに待った日本からの服が届きました！
UNHCRの職員のみなさんが、服を配る準備をしてくださいました。



配布当日、たくさんの人たちが配布場所に集まってきました！
みんなどんな服がもらえるか、楽しみに待っています。



全員に平等に配ることができるよう、リストを作って順番に配布をしていきます。



全員に平等に配るための準備は、とても大切な作業です。
集まった人々は、配布が始まるのを今か今かと待っています。



服を受け取った子どもたち。カラフルな服を手にしてとても嬉しそうです。



届けられた服を着てみると、表情もぱっと明るくなりました。
みなさんが集めてくれた服1枚1枚が、世界中の子どもたちを笑顔にしています。



みなさんの活動によって集まった服と温かい気持ちは、海を越えて、
たくさんの人々に届いています。



着替えとしての服、寒さから身を守るための服、といった役割はもちろん、受け取った人たちの表情から、服には「着る楽しみや、心を明るくするチカラ」があると感じました。



命を守る。おしゃれを楽しむ。
学校に行く機会になる。人が人らしく生きる・・・。
たくさんの「服のチカラ」を、子どもたちにも届けることができました。

みなさん一人一人の想いが、海を越えてたくさんの人々の笑顔につながっていることを、感じていただけたのではないのでしょうか？

衣料回収にご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました！